



足立敏雄議員

道の駅のあり方は

町長 効率的な経営をはかる

問 この春から稼働している道の駅。位置については、経済建設常任委員会ですら2年前から各関係機関と十分な協議をし、ベストな場所と状況で決定できた経過がある。また、施設の規模・内容は小さなものであるが、さまざまな催し物の時、テント

対応等できるようにと話を詰めて決定している。町長の言う具体的な見直しとは何か。

答 (森田町長)

議員時代、経済建設常任委員会の委員だったがその時は反対の立場であった。



西部地区で最初の道の駅

場所については、建設・運営され、多くの皆様にご利用いただいている。位置の変更は考えていないが、さらなる道の駅の魅力向上に向けた取り組みを進めていきたい。

施設の規模・内容については、開設以来、多くの皆様に利用いただいている。混雑し迷惑を掛けていることもあり、その解消にむけ、より効果的な店内活用等の検討や、情報発信や今後の交流拠点としての機能充実に向け、財団法人大山恵みの里公社を中心に取り組みを進めていきたい。

特に運営体制のスリム化や、特長づけのさらなる推進など、先々にわたって、運営が持続できるように、公社の独自性を最大限に生かして、効率的な経営を図っていく。

なぜ農産物加工施設を見直したか

町長 採算性に重点をおいた

問

加工所については19年12月から道の駅と一緒に協議してきたが、1年間先送りした案件である。

この加工所の意義は、地産地消、学校給食に利用、規格外品も加工することで販売でき、農家の所得向上になると考える。

①町長の考える意義は。

②加工所建設について議

会では3月に議決をしているが、中止となった場合、国へ予算を返すリスクについてどう考えているのか。

③なぜ中止という発言となったのか。

④見直しの具体的な点は。

答 (森田町長)

本町では豊富な資源を活用し、さまざまな事業が展開されているが、農産物価格の不安定さや資源の高騰など、経営はきびしく農業者の高齢化や農業はなれによる耕作放棄地の増加など、農林漁業などを取り巻く環境はきびしい状況にある。

①加工所の意義は、我が町の優位性をいかし、地元農水産物に付加価値をつけ、有利販売をする。

加工品の生産、特に消費ニーズ・調査にもとづく商品開発・生産と大山ブランド品づくりである。さらに雇用の創出、生産者所得向上など、地域活性化のため必要と考える。

②現在、加工所事業を進めているので、予算を返すリスクについては考え

ていない。

③中止という発言は、2月の討議資料のもの。平成22年建設予定という思いの中で作成したが、3月に建設という方向で議決された。その後の討議資料には見直しと訂正した。

④特に加工品の品目の絞り込み、販売先の確保の強化、商品開発、特に採算性に重点を置いて、計画の変更を詰めた。



農家の所得向上をめざして